巻頭言
就任の御挨拶

内科学II教室　主任教授
西川　浩樹

2022年8月より内科学II教室主任教授を拝命しております西川浩樹でございます。内科学II教室は伝統のある教室で、上部消化管グループ、下部消化管グループ、肝臓グループ、胆膵グループ、化学療法グループを擁する大組織であり、OBの先生方も含めると500人以上の規模になるかと存じます。多くの患者・検査・処置をかかえて日々奮闘しておりますが、これらのことに教室員が一丸となって立ち向かっております。教室の雰囲気は至ってアットホームで、「明るく楽しく仕事ができる第2内科」をモットーとした運営を意識しております。そして昨今押し寄せている時代の変革に柔軟に対応した組織作りも重要なことと認識しております。

時間の経過は思いのほか早く、私が昨年8月1日に着任してから1年程度が過ぎようとしております。着任当初は教室運営の有効な方法がまったく見えてこず、五里霧中の状態でした。とりあえず目前に迫る課題に真摯に向き合い、一つ一つ問題点を解決しようということだけを考えておりました。その後、第2内科に関連する様々な人とのコミュニケーションや周囲の人たちの支えがあり、徐々に教室運営のやり方が見えてきたような気がします。結局のところ、組織の最大の財産は人、すなわち「医局員」であり、各医局員の現状および今後の道筋への配慮、そして新しく入局してくれる若者が気持ちよく仕事ができるように適宜環境の整備をすることが、今の私に課された最大の務めのように思います。若き医局員の充実した体制は我々教育者の「教える気持ち」を掻き立て、組織前進の原動力になります。

着任以降のことを具に思い起こすと、決して容易な道のりではありませんでした。何らかの問題が日々教室内で起きており、私自身落ち込んでしまった日は数えきれないくらいあります。しかし、私がいつまでも落ち込んでいるわけにはいきません。問題解決のために自ら進んでアクションを起こす必要があります。診療のこと（収益性への配慮や紹介患者の獲得）、教育のこと（体制の整備）、研究のこと（対外的な情報発信能力の維持・向上）、人間関係のこと（これが最も難しい？）、関連病院の運営のこと、お金のこと（運営資金の獲得と分配方法）、すべてが教室運営の根幹に関わる問題であり、これらのことに対して常に同時に対応していかねばならないことに教室運営の難しさを感じております。どれか一つでも欠陥が生じると、おそらくすべてが音をたてて崩れると思います。組織とは「デリケートで脆いもの」との認識が必要で、それらをいかにして強固な有機体へと昇華させるかという発想が大切です。徳川家率いる江戸幕府は約300年間続きました。彼らの幕府の運営に

何らかの「教室運営のヒント」が隠されているのかもしれません。一瞬だけ輝くのではなく、その輝きをいかに永続的な輝きにするかです。そして輝きを保ちつつ、健全な形で次世代にバトンタッチをすることも合わせて重要なことかと存じます。

私は主任教授となり、物事への価値観が劇的に変わりました。自分で率先して研究をし、論文を書き、患者をたくさん診察し、自己満足に浸り、酒を飲んで寝るというのが従来の私のスタイルでありましたが今は違います。いかにして第2内科の関連の皆様に喜んでもらうか、たとえ喜んでもらえなかったとしても、どうやって納得してもらうか、これらの点が充足されて初めて私の「自己満足」が成立します。本当に守るべきは「健全な第2内科の精神」との考えにも至りました。たとえ満足のいく教室運営であっても、他者から後ろ指をさされるようでは話になりません。対外的に第2内科がどうあるべきかについてもひき続き議論を進めて参ります。また我々は内科医ですが、「消化器グループの一員としての第2内科の使命」も意識しつつ、関連他科（外科、放射線科、病理等）の先生方との連携も強めて参ります。

新体制になって間もない当教室ですが、皆様方の叱咤激励を糧としつつ全力で教室運営を進めて参ります。今後とも変わらぬご指導・ご鞭撻をよろしくお願いします。

略歴

平成11年 3月	京都大学医学部卒業
平成11年 4月	天理よろづ相談所病院
平成16年 6月	大阪赤十字病院
平成27年 4月	兵庫医科大学
平成29年 4月	独立行政法人医薬品医療機器総合機構（PDMA）
平成31年 4月	兵庫医科大学
令和3年　4月	大阪医科薬科大学先端医療開発寄付講座
令和4年　8月	大阪医科薬科大学内科学II教室主任教授

学会活動等

- 日本内科学会評議員
- 日本肝臓学会専門医・指導医・評議員
- 日本消化器病学会専門医・指導医
- 日本臨床栄養学会評議員

賞罰

2017年	日本肝臓学会英文誌 Hepatology research citation award
2018年	日本肝臓学会英文誌 Hepatology research citation award
2019年	日本消化器病学会冠 award